

源氏物語之箇本幸切紙

揚若みり人

揚若ききみららとら夜職  
あ侍らにさしり

福れこそいけは海もとる  
こり一もしあふり

此餅を銀差口杯しり  
こり一といとんをゆらり

ふゆらふゆら  
み

このおとら夜書入るは



このおすゝく人衣衣衣入るへははらり  
二條院殿上より宿正御まじり

右源氏物語之を神代に相傳へては  
授禪定殿下流に守此道は法度男  
不之と海賊者也

天正五年閏月廿日 権大納言実隆

右之之際西実隆より之際殿へ傳へ  
らるゝ貞徳へ傳へ貞徳より繁舟へ傳へ  
繁舟より之を傳へしつゝ之のあり  
依此らと令傳授年

寛文十一年

霜月下旬

長井氏  
自陳

靈哲和尚

揚名 空 法身佛

福の庵 假 應身佛

このお袋 中 報身佛

空假中 革囊

先源氏物語之を大事に切紙大納言也

先師氏物語にて大書一切秘大秘也  
且又深秘之旨令相傳也  
抑是之天台之軍備正しく業武  
徳之末より今より正しくあり自  
事せば三界の邦ありんもの  
如指を盟みたり人よの  
あり

和文

揚家之身よりなり舟よ  
之をまよせし官は信し  
之の餅 銀を採りて  
みく之のひりしと合す  
この揚家とのおとる人  
候なり

揚家 必しとす  
この儀は  
之の儀は  
はし又  
之の儀は  
立示さ  
物流一  
何の  
本よ  
夢に  
爰れ

夏は浮橋は流しや相門の心流る水  
寧ろまふはことごとくは流る水は  
うらむもくは夏は流る水は  
我は流る水は流る水は流る水は

之箇大事一子相一部は流る水は  
庭前は柏樹は流る水は流る水は  
事は流る水は流る水は流る水は  
今こそは流る水は流る水は

# 口交

## 革囊

壞 佛意 佛言革囊ノ血穢余来何為  
去吾不用

早二章経 天神獻王女欲以試佛之之言革

囊以穢余来何為高僧鬼一

子寄宿称天女曰上人有德天遣

我來鬼曰吾心若死灰母以革囊

見試女仍凌雲而逝矣 私云代醉三十二

源氏物語と清下りに之題と一部の也標

宗用高よりて之版とたははるも中一も是

源氏物語の名と和下りに此文字一部は

名はり是に也題別是も是源氏れは

也題や源氏れは也始の一なり 相重の文字

是も源氏れはり始はりは是も源氏れはり

人乃名よりはる之字一人の文字也納の二

字二部の文句は是も源氏れはり始はり

はりはりはりはりはりはりはりはりはり





魚一、うましとお徳なり、婦、他見漏脱  
とく、のり、は、よ、の、や

寛文十二年

應鐘中句

夢鷗

靈智力也

○百人一首五首 二條家

足安、た、い、る、の、も、は、三、り、な、れ

け、新、傳、の、き、め、し、も、字、に、長、離、雄

別、よ、わ、ら、も、い、し、此、寄、の、な、き、よ、い、ら、く  
け、也、六、の、新、其、安、と、田、に、い、ら、る、

け新傳の巻の巻もして空の風雄  
別よわらむと此方のなまはく  
叶や大の新一共成と曲にむら  
前に非とゆふ内なるむらむら  
つらひに独あしおなたるま  
ゆらもむらむらあつむらむら  
まらとあしむらむらむらむら

喜撰

我庵をよむ古の牛飼人  
せとろ山火人かきん

是邊序題曲流むらむらむら  
宇治山火人かきん  
よむらむらと邊序題曲流むら

仲鷹

天の原より出づる春日  
こゑのうらむらむら

大の奇き証のたらしむらむら  
かつらむらむら早都の事  
よむらむらむら唐めて都  
らむらむら証のたらしむら

忠峯

長明のほらむらむらむら



忠峯

晨明のぼる影くみえりおんを

曉にらるるよよ物をけり

うよまをさひおて曉別はよよ  
けりともあつてもけりけり  
かき今の曉にけりけり  
ちかきよふをさひおて

定家

かぬ人よちりほののたねま

なをさひおての身もけり

い新古事とさすてあつるけり  
古事と新勅撰よあつるけり  
柳の

右之門人奮忠峯 定家の

奇よとさすて

他流五首秘凌

家持

かてはのよと家持よと家持の  
しるよと家持のよと家持の

は新鶴橋と家持の玉階よと家持の

は奇鶴橋と日表の玉階よはして  
糸葉撰の時無際けが志之君長三葉よ  
粹ぢらうし

法性寺道前園

福の原清をらんはくがこれ

書升しやう仲津なかつ良

此方の福の原と天下またなく書升と  
帝はと書升はよがの関白天子  
れ代ととつるあやふやと後と  
長もはと舟と天子またなくあやと長も  
たも書ととい奇と長職のさし書  
と書

忠峯

福の原のほくはく  
曉あきとつる物と

此奇は流汁と對してよあや宵  
けはは信やう他としんじよ。曉の  
別の時ふたもせんか。曉は  
うふあをりしやと

鎌倉春大石

せの中と常あやりあや  
舞れとあやのほく

とつるあやのほく

その中を常めりておぼやかし  
舞れどもこのほろこし  
い奇天子の御代よしと思ひ  
事としむるにや大臣の職の  
記しどももり事なれども  
なり

大和言経信

名しりて曰れぬとて

おしりてなりし物なり

此奇大物なれしに  
天子の御代よしと思ひ  
事としむるにや大臣の職の  
記しどももり事なれども  
なり

右他流丑首秘凌

右首人一首丑首秘凌  
傳之趣不強毫秘屋  
哲也盟漫不可他見漏脱也

延宝貳丁年

夢鶴

月

靈哲力生

